



「ゆ」から世界を新しく。

GOKURAKUYU
HOLDINGS

2023年3月期 決算説明

2023年5月22日

(コード番号2340 東証スタンダード)

株式会社極楽湯ホールディングス

本資料は、株式会社極楽湯ホールディングスの事業および業界動向に加えて、株式会社極楽湯ホールディングスによる現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまっています。既に知られた、若しくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社極楽湯ホールディングスは、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2023年5月22日現在において、利用可能な情報に基づいて、株式会社極楽湯ホールディングスによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではございません。

問い合わせ先: ir@gokurakuyu.ne.jp

1. 2023年3月期 決算概要

- 1、純資産プラス149百万円となり、債務超過解消。
- 2、日本は、新型コロナに伴う影響が前年に比べて少なく、コラボ売上が好調に推移したことで大幅な増収・増益。電気・ガス代を中心にコスト高が利益を圧迫しており、シーズン料金の適用、入館料の値上げで対応。
- 3、中国は、ゼロコロナ政策に伴い数か月に渡る臨時休業。解除後の感染爆発により従業員が出勤できず時短営業。下期はコロナ落ち着きFC3店舗オープンも減収・減益。
- 4、減損損失の計上等により4期連続最終赤字。
- 5、金融機関からの借入金の返済猶予（半年ごと）を継続中のため、継続企業の前提に関する注記事項を記載。

前連結会計年度末の純資産は12百万円の債務超過となっておりましたが、ファシリティ型新株予約権の行使による資金調達等により、当連結会計年度末の**純資産は149百万円となり債務超過を解消**いたしました。

◆ファシリティ型新株予約権の資本政策◆

当社がS M B C日興証券に対し、行使可能期間を約3年間とする行使価額修正条項付新株予約権を第三者割当の方法によって割り当て、本新株予約権の行使(希薄化)に伴って当社の資本が増加する仕組み

<2022年4月 第2回発行>

資金調達 ➡ 2023年3月迄に約4.3億円を調達

※2023年4月3日、新株予約権の行使の停止通知（～7月31日まで）

<2020年7月 第1回発行>

資金調達 ➡ 2021年3月迄に約5.4億円
2022年3月迄に約5.9億円（すべて行使済み）

- ①売上高は、前期比27.2%増の12,768百万円（2,732百万円増加）
- ②営業利益は、前期に比べ609百万円増加し40百万円の営業利益
- ③経常利益は、前期に比べ567百万円減少し184百万円の経常利益
- ④親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に比べ1,674百万円増加し304百万円の親会社に帰属する当期純損失

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主帰属 当期純利益
23年3月期 実績		12,768	40	184	▲304
22年3月期 実績		10,036	▲568	751	▲1,979
前期比	増減率	27.2%	—	▲75.5%	—
	増減額	2,732	609	▲567	1,674

【日本・中国】セグメント売上高と利益又は損失

- ①日本は、売上高が前期比38.8%増の11,667百万円（3,259百万円の増加）
セグメント利益584百万円は、前期セグメント損失476百万円より
プラス1,061百万円 →増収増益で業績回復傾向
- ②中国は、売上高が前期比33.7%減の1,101百万円（560百万円の減少）
セグメント損失393百万円、前期セグメント利益45百万円より
マイナス439百万円 →ゼロコロナ政策の影響を受けて大幅な減収減益

(単位：百万円)

	売上高				セグメント利益				
	日本	中国	調整	計	日本	中国	調整	計	
23年3月期 実績	11,667	1,101	-	12,768	584	▲393	▲150	40	
22年3月期 実績	8,407	1,662	▲32	10,036	▲476	45	▲138	▲568	
前期比	増減額	3,259	▲560	32	2,732	1,061	▲439	▲12	609
	増減率	38.8%	▲33.7%	-	27.2%	-	-	-	-



【日本】セグメント 四半期毎の状況

①「黒子のバスケ」「ワイルズ」等の
コラボイベントが好調で増収
②前期に抑えていた修繕や設備メンテナ
ンスを実施したこと等により減益

①引き続きコラボイベントが好調に推移
②感染者数の減少による客数増
③エネルギーコストの増加を入館料の値
上げでカバー出来たこと等で増収増益

(単位：百万円)

		1Q 4-6月	2Q 7-9月	3Q 10-12月	4Q 1-3月	累計
23年3月期 実績	売上	2,672	2,760	2,942	3,292	11,667
	セグメント利益 又は損失	180	113	▲27	318	584
22年3月期 実績	売上	1,863	1,790	2,390	2,363	8,407
	セグメント利益 又は損失	▲241	▲242	8	▲1	▲476

①前年同期に強いられた営業制限（店舗営業時間の短縮、アルコールの提供停止、飲食エリアの時短営業等）がなくなり来店客数が回復
②「鬼滅の刃」（第二弾）をはじめとするTVアニメ等とのコラボイベント実施を強化して若い世代を中心に客足が回復し客単価が上昇

①前年同期に比べ消費マインドが持ち直したことで客足が回復
②エネルギーコストや原材料費、人件費等が上昇していることを受け、9月に直営店に入館料を値上げ
③「SPY×FAMILY」や「ONE PIECE FILM RED」等のコラボイベントの実施店舗や頻度を増やすことで来店客数や収益により一層貢献

【中国】セグメント 四半期毎の状況

①ゼロコロナ政策が継続され休業を繰り返した
 ②12月上旬にゼロコロナ政策が解除され感染が拡大し客数に影響

①4Qは、春節があり最大の繁忙期
 ②コロナ感染者数増加とインフルエンザの流行
 ③前期にあった家賃減免がなくなり減益

(単位：百万円)

		1Q 4-6月	2Q 7-9月	3Q 10-12月	4Q 1-3月	累計
23年3月期 実績	売上	24	260	276	540	1,101
	セグメント利益 又は損失	▲244	▲78	▲90	20	▲393
22年3月期 実績	売上	360	297	460	544	1,662
	セグメント利益 又は損失	33	▲88	14	86	45

①長春市、上海市ともにロックダウンの影響で2か月以上にわたって臨時休業
 ②ロックダウンが解除された後も、営業再開が出来ず、営業を再開できた後も中国政府の厳格なコロナ管理体制が続いたことで市民の外出が減るなど影響が続いた

①厳格なコロナ管理体制が続くも、海外だけでなく国内でも市外に出ることも厳しく管理されることから市内のレジャー需要が高まり大幅に回復
 ②利用者が濃厚接触者に該当した場合や店舗付近で感染者が出た場合に一時的に臨時休業になるなどゼロコロナ政策の影響を受けた

前期に比べ、当期は **元高円安** で推移

2021年4月1日～
2022年3月31日

1元=17.50円
(平均レート)



2022年4月1日～
2023年3月31日

1元=19.76円
(平均レート)

平均レート (円/元)

	1Q	2Q	3Q	4Q
2023年3月期	19.60	19.90	19.91	<u>19.76</u>
2022年3月期	16.94	16.98	17.24	<u>17.50</u>



「ゆ」から世界を新しく。
GOKURAKUYU
HOLDINGS

営業外損益

(単位：百万円)

主なもの		金額	説明
1.	原油スワップ差益	129	原油スワップ契約に基づく決済取引による収益
2.	助成金収入	94	休業補償金・時短営業協力金等の入金
3.	協賛金収入	63	国内直営店舗の自動販売機設置に伴う協賛金
4.	デリバティブ評価損	▲117	原油スワップ契約の評価差額による損失
5.	支払利息	▲92	銀行などへの借入利息

特別損益

(単位：百万円)

主なもの		金額	説明
1.	投資有価証券売却益	114	投資有価証券の売却益
2.	減損損失	▲472	日本=114百万円、中国=357百万円

- ①総資産は、前期比12.2%減の15,171百万円（2,102百万円の減少）
- ②純資産は、前期末より162百万円の増加となり149百万円
- ③自己資本比率は、前期末▲2.0%に対し当期末は▲0.9%
- ④ 1株あたり純資産は、前期末より10円29銭の増加となり▲6円4銭

(単位：百万円)

		総資産	純資産	自己資本比率	1株あたり 純資産
23年3月期 実績		15,171	149	▲0.9%	▲6円4銭
22年3月期 実績		17,274	▲12	▲2.0%	▲16円33銭
前期比	増減率	▲12.2%	—	—	—
	増減額	▲2,102	162	—	10円29銭

(単位：百万円)

	22年3月期 実績	23年3月期 実績	増減
営業活動CF	1,499	836	▲662
投資活動CF	▲655	175	+831
財務活動CF	456	▲1,755	▲2,212
現金及び現金同等物に係る 換算差額	84	-	▲84
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	1,384	▲743	▲2,127
現金及び現金同等物の期首残高	4,788	6,172	+1,384
現金及び現金同等物の期末残高	6,172	5,429	▲743

売上高は増加したが、店舗の営業制限に伴う時短営業協力金や雇用調整助成金の減少

①投資有価証券の売却による収入525百万円
②差入保証金の支出186百万円（主に中国のVIPカードの保証分を前受金から敷金・保証金に振替）

①金融機関からの借入金の返済猶予を継続いただいております。回収CFから短期及び長期借入金合わせて2,160百万円を返済



当社グループは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、継続して重要な親会社株主に帰属する当期純損失を計上した結果、前連結会計年度末の純資産は12百万円の債務超過となりました。しかしながら、当連結会計年度においては、中国でのゼロコロナ政策に基づく臨時休業や減損損失の計上が大きく影響し、親会社株主に帰属する当期純損失となったものの、ファシリティ型新株予約権の行使による資金調達等により、当連結会計年度末の純資産は149百万円となり債務超過を解消いたしました。

一方で、当社の有利子負債については、すべての取引金融機関からの支援（返済猶予）を受けるなど理解を得られていますが、業績や財務体質が正常化するまで支援が確約されているものではないことから、当社グループは継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、有利子負債の圧縮等により金融機関との取引の正常化の早期実現に向けて注力しております。返済原資となる資金の獲得等の取り組みにより、業績の改善及び財務資本の強化を図りつつ、当該状況の解消、改善に努めてまいります。しかしながら、これら対応策は実施途上であることから、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を反映しておりません。

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動抑制からの回復、エネルギーコストの高騰、為替など先行きは不透明
- ② 2024年3月期の連結業績見通しは、未定
- ③ 2024年3月期の配当(予想)は引き続き、無配

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主帰属 当期純利益
24年3月期・予想	未定	未定	未定	未定
(ご参考) 23年3月期・実績	12,768	40	184	▲304

2. 国内の取り組み

<2022年度実施一覧(1)>

「ももいろクローバーZ」	5月13日～5月19日	グループ12店舗
「ユニクロ」	5月13日～7月3日	グループ13店舗
「鬼滅の刃」(第二弾)	5月20日～6月30日	グループ29店舗
「SPY×FAMILY」	7月1日～8月14日	グループ20店舗
「弱虫ペダル」	7月7日～8月14日	グループ9店舗
「マクロス」(第二弾)	7月15日～8月14日	グループ6店舗



<2022年度実施一覧(2)>

「宇宙なんちゃらこてつくん」	7月29日 ~ 2023年4月30日	グループ22店舗
「ONE PIECE FILM RED」	8月18日 ~ 9月19日	グループ20店舗
「ペルソナ25周年」	8月26日 ~ 9月25日	グループ11店舗
「A3!」	9月22日 ~ 10月30日	グループ16店舗
「黒子のバスケ」	9月30日 ~ 10月30日	グループ13店舗
「LOWRYS FARM」	9月23日 ~ 12月31日	グループ12店舗



<2022年度実施一覧(3)>

「ソードアート・オンライン」	11月 1日 ~ 11月30日	グループ10店舗
「シャングリラ・フロンティア」	11月 2日 ~ 11月27日	グループ 5店舗
「カラフルピーチ」	11月 3日 ~ 11月30日	グループ20店舗
「もちまる日記」	12月 1日 ~ 1月 9日	グループ17店舗
「ワイテルズ」	12月 2日 ~ 1月 9日	グループ17店舗



SPECIAL
COLLABORTION
極楽湯
OFUROJIKAN
LOWEYS
FARM



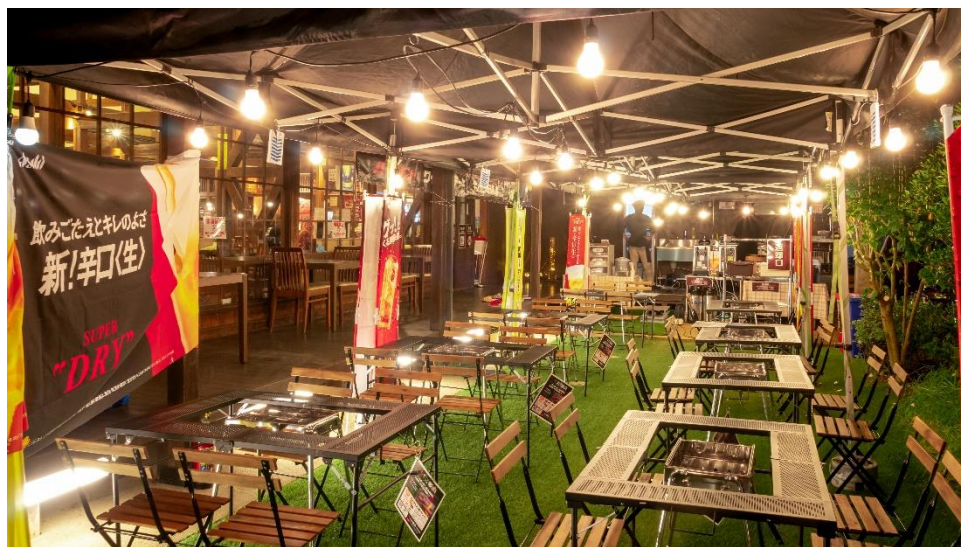
<2022年度実施一覧(4)>

「夢職人と忘れじの黒い妖精」	1月12日～2月19日	グループ10店舗
「ブルーロック」	1月13日～2月19日	グループ21店舗
「ニーアオートマタ」	2月21日～3月21日	グループ15店舗
「文豪ストレイドッグス」	2月22日～3月21日	グループ18店舗
「五等分の花嫁」	3月23日～4月23日	グループ11店舗
「ホロライブ」(第二弾 4期生)	3月24日～4月23日	グループ24店舗





8月14日 ~ 11月30日	炭火烧テラス楽炎	RAKU SPA 鶴見(BBQ)
9月16日 ~ 11月30日	炭火烧テラス楽炎	千葉稲毛店(BBQ)
1月16日 ~ 2月28日	牡蠣小屋・オイスターテラス	和光店・宇都宮店・津店



【国内】 ③その他店舗の限定イベント

6月 1日～ 7月31日	ウクライナ人道支援ピースフルフロート	グループ28店舗
9月17日～10月25日	サウナ飯フェア	グループ21店舗
10月1日～11月30日	しあわせピンクバスプロジェクト	グループ28店舗

極楽湯 RAKU SPA 解禁の場

ウクライナ人道支援 寄付活動

活動 1

スマイリーサンデー
1品ご注文で
100円を寄付

2022年8月10日(水)～
9月30日(金)まで販売

販売価格
500円
税込550円

・極楽湯、RAKU SPA(直営店全店)

募金活動も同時開催中

皆さまの温かいご支援
よろしくお願ひします




極楽湯の サウナ飯

四川風 シビ辛麻婆ラーメン

台湾まぜカレー



しあわせピンクバスプロジェクト

Pink Ribbon

ピンクリボン サラダライスセット
1,180 (税込1,290)

ピンクリボン フロート
450 (税込495)

happy pink bath project

1品販売につき100円をピンクリボン基金へ寄付します
極楽湯は日本列島しあわせピンクバスプロジェクトを応援しています

募金活動も同時開催中

皆さまの温かいご支援
よろしくお願ひします




【国内】 ③その他店舗の限定イベント

11月25日～2月28日 忘新年会

グループ13店舗

1月21日～2月28日 サウナ飯フェア

グループ21店舗

2月6日～3月6日 JA高知生姜コラボ

グループ21店舗





RAKU CAFE 池袋

2023年1月12日にアニメの聖地、池袋にコラボカフェとしてオープン。
事前予約制、コラボキャラとの特別な空間と時間を堪能できるカフェ。

◆ご利用案内・ご予約・空席情報：<https://rakuspa.com/ikebukuro/>



3. 中国の取り組み

中国のフランチャイズ店「極楽湯 北大温泉館」（吉林省）が2022年11月26日にグランドオープンいたしました。

「極楽湯 北大温泉館」は、中国最大規模の吉林北大湖スキー場に隣接し、スキー場を利用するお客様をメインターゲットにしており、スキー場のご利用と合わせて、ご入浴や岩盤浴、飲食、リラックスゾーンなど、長時間お寛ぎいただくことができる温浴施設となっております。



中国のフランチャイズ店「極楽湯 臨港温泉館」(上海市)が2023年1月8日にグランドオープンいたしました。

「極楽湯 臨港温泉館」は、上海浦東国際空港の南側にある自由貿易試験区臨港新エリアに位置し、店舗面積が中国の他店舗と比較すると小さめですが、東京都千代田区神田にある“RAKU SPA 1010”をモデルにスタイリッシュなデザインの温浴施設となっております。

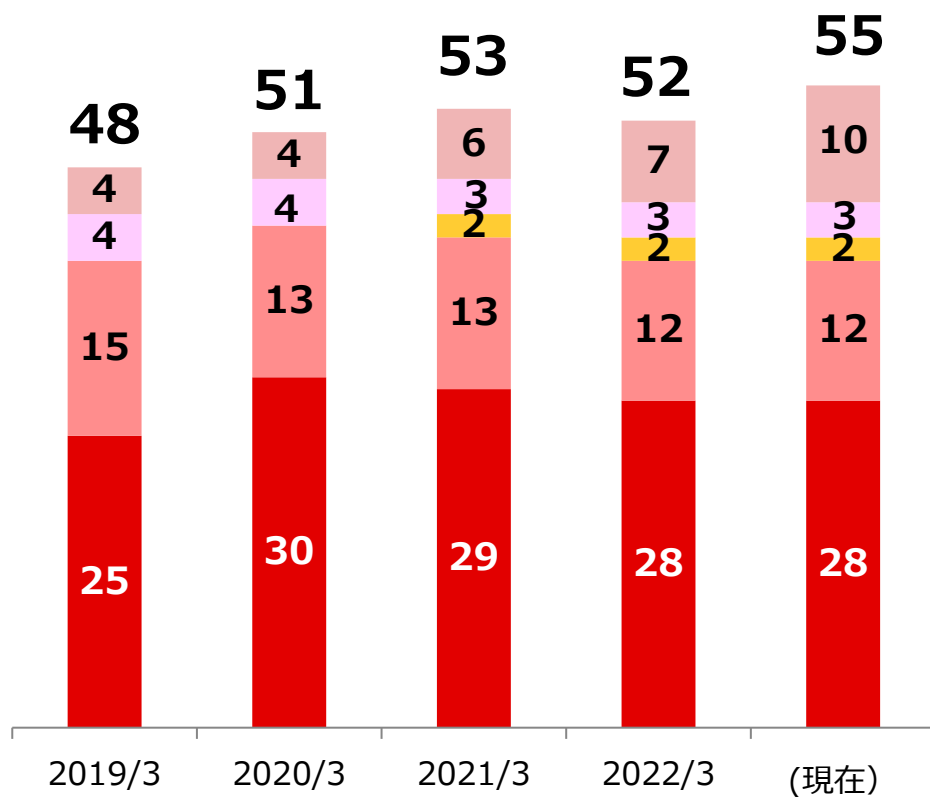


中国のフランチャイズ店「極楽湯 旅籠温泉酒店」(上海市)が2023年3月18日にグランドオープンいたしました。

「極楽湯 旅籠温泉酒店」は、上海ディズニーランドに近い川沙地域に位置し、日本式の温浴にこだわり、大浴場の内湯だけでなく、広い露天風呂を堪能でき、館内はまるで日本にいるかのような雰囲気味わえる温浴施設となっております。



- 国内直営
- 国内FC
- 国内グループ
- 海外（中国）直営
- 海外（中国）FC



直営31

国内 28 海外 3

FC22

国内 12 海外 10

グループ²

国内 2

計 55

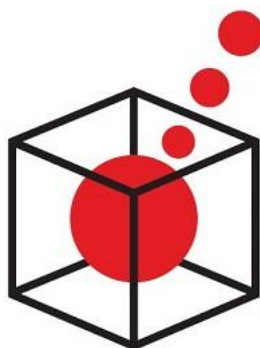
国内 42 海外 13

(2023年5月22日現在)

4、(参考)会社概要・国内の温浴業界

(株) 極楽湯ホールディングス 2017年1月1日 誕生

ロゴマーク



「ゆ」から世界を新しく。

GOKURAKUYU
HOLDINGS

— ロゴマークに込めた思い —

極楽湯グループは「ゆ」から始まる
快適癒し空間を創って来ました。

今後も、新たな空間創りのため、
「ゆ」のように温かくも、
型にはまらず成長し続ける
私達でありたいと思っています。

人への温かさ、優しさ。

即ち「癒し」を通じて社会貢献を果たします。

日本から世界へ。

人や自然との調和を大切に。

その先の成長へと向かい、発信し続けていきます。



国内NO.1 温浴チェーン (店舗数日本一)

「極楽湯」「RAKU SPA」ブランドで 国内42店舗(直営28・FC12・グループ2)の温浴施設運営

《近年の出店状況》

2019年7月 株式会社タカチホより温浴事業(5店舗)を譲受け、直営店としてオープン

2020年4月 エオネックスグループへ資本を入れ、メンテナンスの効率化を目指す
“祥楽の湯”2店舗がグループに加わる

中国で温浴事業 (直営とフランチャイズ展開)

人口世界No.1であり、高度経済成長国の中国に2011年に進出

2013年、上海に海外1号店をオープン。現在直営3店舗、フランチャイズ10店舗

《近年の出店状況》

2021年1月 「極楽湯 即墨温泉館」(青島市) (FC店) がオープン

2021年5月 「極楽湯 金銀罈店」(武漢市) (FC店) がリニューアルオープン

2021年7月 「極楽湯 百万石温泉街」(上海市) (FC店) がオープン

2022年11月 「極楽湯 北大温泉館」(吉林省) (FC店) がオープン

2023年1月 「極楽湯 臨港温泉館」(上海市) (FC店) がオープン

2023年3月 「極楽湯 旅籠温泉酒店」(上海市) (FC店) がオープン

(2023年5月22日現在)

極楽湯
ごくらくゆ

「日常生活の延長線上に癒しを提供する」
をコンセプトに展開する日帰り温浴施設
直営のほか、フランチャイズ形式で出店



 **RAKU SPA**

特に若い世代を中心にお風呂と合わせて広々とした
館内で多くの遊べるコンテンツを盛り込み、癒しと
遊び心が詰まった、楽しめる温浴施設
“RAKU SPA Cafe” や “RAKU SPA GARDEN”、
“RAKU SPA 1010(セントウ)”といった特色ある
シリーズで出店



国内の平均店舗の約6倍の広さをもつ館内に
日本の「和」を感じる空間をデザイン、
国内店舗と同等の衛生管理、癒しなど
「おもてなし」サービスの提供を目指す。
直営店のほか、フランチャイズ形式で出店。



温浴事業の再強化・拡大

(温浴施設を起点に娯楽二ーズを取り込む)

国内：直営出店＋既存店の補修・改装（進化）

「RAKU SPA」： 滞在型娯楽施設として進化・発展

「極楽湯」： 補修・改装による安心安全・顧客満足度の向上

中国：FC・直営出店＋大規模改装

日本式温浴への二ーズは落ちていないが
さらなる収益拡大に向けた直営店の改装と施策の実施
現地事業会社とのFC展開・直営出店の推進

+ 新業態開発による既存事業への波及効果

外食事業（第2弾：RAKU CAFE（新しいコンセプトのお店））

国内外で市場規模とニーズに合わせて 事業を拡大・推進させていく

温浴施設と付帯施設の展開を軸に売上高増加・収益性の追求

新形態・新業態開発

国内：
RAKU SPA
RAKU SPA Cafe
など

中国：
極楽湯直営・FC

国内：
極楽湯直営・FC 【ベース】



入館料金 + α のアイデアで収益機会の可能性大

公衆浴場法

一般公衆浴場業

銭湯

地域住民の日常生活の
健康衛生上必要なもの

料金は都道府県が規定
(物価統制令で入浴料金を統制)
大人：350円～450円

その他公衆浴場業

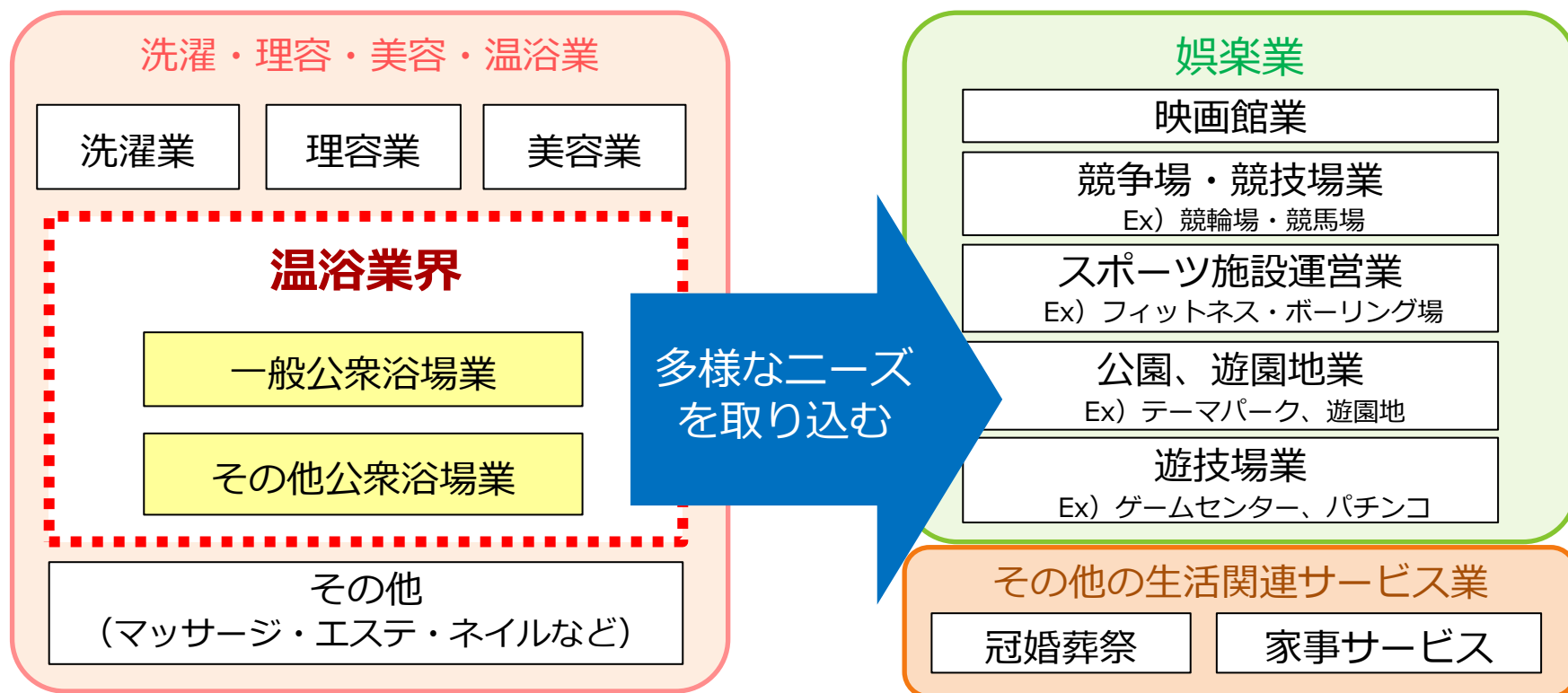
温浴業界

日帰り温浴施設、
スーパー銭湯、健康ランド
サウナ、スパ、クアハウス
など銭湯以外すべて

料金は施設が自由に設定
(物価統制令の適用外)
大人：400円～900円が中心

若い世代など多様なニーズを取り込む動き

生活関連サービス業、娯楽業（日本標準作業分類）



公衆浴場営業許可施設： **23,954**施設(2020年度)

うち、一般公衆浴場：3,231施設

1970年占有率：87% ⇒ 2020年占有率：13.5%

(出所：厚生労働省「衛生行政報告例」)

大型レジャー浴場や食事、休憩、娯楽施設も併せ持つスーパー銭湯の増加
ターゲットを明確にして特色ある施設へと差別化、工夫を一層進める

背景

高齢化社会の到来
健康志向の高まり
余暇の過ごし方が多様化
業態のボーダレス化
緩やかな所得改善

当社の展開

テーブル席の増加
炭酸泉、岩盤浴の導入
明るい照明、床材へ
キッズコーナーの充実
大型温浴施設の出店
飲食充実、専門店の出店

集客・収入・利益の創出

温浴施設（入館料金）

+

利益の補完

附帯施設の利用

事業の特性

- ・ 装置産業
- ・ 固定費負担重く、償却費も多い
- ・ 固定費を下げることで利益増につながる
- ・ 損益分岐点からのかい離率が大きいと利益が累積的に増加する
- ・ 原油等の市況価額の変動の影響でコストの変動リスクがある

事業の特性

- ・ アイディア・サービス
- ・ 変動費比率が高いので、増収→増益に直結しやすい
- ・ 初期投資費用が少なく採算性が見極めがしやすい
- ・ 継続的な採算性チェックが必要

収益向上への考え方

- ① 固定費の引き下げ
- ② 集客増による増収効果

収益向上への考え方

- ① 生産性を見直し
- ② 稼働率の向上

◆温泉施設

11.4% 

順位	社名	本社	部門売上高 (百万円)	前年度 比伸び 率(%)	決算月
1	極楽湯ホールディングス ◇	東京G	10,036	14.5	3
2	スパサンフジ (湯楽の里・喜楽里)	東京	8,994	22.3	3
3	オークランド観光開発 (竜泉寺の湯、喜盛の湯、スパメッツアほか)	愛知	6,302	12.3	4
4	創裕 (ぼかぼか温泉ほか)	香川	3,143	12.5	3
5	カケン (喜多の湯)	愛知	2,033	2.2	3
6	常磐興産 (スパリゾートハワイアンズ) ◇	福島	2,021	—	3
7	ツルカメO&E (風の湯、おゆば、葵湯、風の森、大家族の湯)	香川GF	2,000	3.6	3
8	サンリク (健美の湯)	埼玉	1,428	14.1	3
9	コシダカホールディングス(まねきの湯)	東京G	897	▲25.7	8
10	マンテンホテル (満天の湯)	富山	896	2.8	9
11	エコナックホールディングス (テルマー湯) ◇	東京G	687	—	3
12	亀井工業ホールディングス (湯快爽快)	神奈川	504	▲33.8	9
13	タカチホ (湯ったり苑) ◇	長野	238	—	3

【温泉施設】スーパー銭湯や大型温泉などを運営している有力企業が対象

極楽湯グループ 売上No.1

※「日経MJ」調べ
※当社グループの海外売上含む

(「日経MJ」2022年10月19日より転載)